

集会宣言（案）

2021年12月4日、5日、私たちコミュニティ・ユニオンの仲間は、富士を臨む静岡県立大学につどい、第33回コミュニティ・ユニオン全国交流集会を開催した。コロナ禍のもとで、交流が困難になっている今だからこそ、「生きることはつどうこと コロナをのりこえ、連帯を深めよう！」という集会テーマを掲げ、二日間、交流を深めた。

本集会で、私たちは、静岡においても、外国人労働者など非正規雇用労働者の使い捨て状況が深刻化していること、JR東海、中部電力が、資本の欲望をむき出してリニア新幹線、浜岡原発再稼働を強行しようとしていることを学んだ。全国的にも、労働者の実質賃金は下がり続け、最低賃金28円アップの効果も吹き飛んでしまっている。あくなき欲望を前に、私たち、労働者、市民が、人間らしく生きていくことが困難であるかにみえる。

「世界で一番企業活動がしやすい国」をめざしているこの国の権力・企業は、私たちの先輩たちが積み上げてきた団結権、団体交渉権、団体行動権を破壊しようと、弾圧を強めている。全日建運輸連帯労組関西生コン支部大弾圧に端を発するこの弾圧は、現在、全国一般福岡・ユニオン北九州にもみられるように全国に広がっている。政府は、さらに「解雇の金銭解決」制度をめざし、労働組合の骨抜きをもくろんでいる。憲法改悪につながる、これらの動きは、し烈さを増している。時代は、逆境であるかにみえる。

だが、私たちには、彼らが求めて決して得ることができない力がある。連帯である。それは、それぞれの職場、地域に深く根を張った縦の連帯であり、全国に張りめぐらされた横の連帯である。コミュニティ・ユニオンの連帯がいまこそ求められている。連帯を深めよう。

決して、慌てる必要はない。コロナ禍の終息が見通せない中にあっても、私たちは、じっくりと交流を工夫し、闘いを通じて力を蓄積し、次に備えよう。

最後に、私たちは、本集会の成果を地元に持ち帰り、来年の札幌集会では、より力強い報告をしていくことを宣言する。

2021年12月5日

第33回コミュニティ・ユニオン全国交流集会・静岡 参加者一同